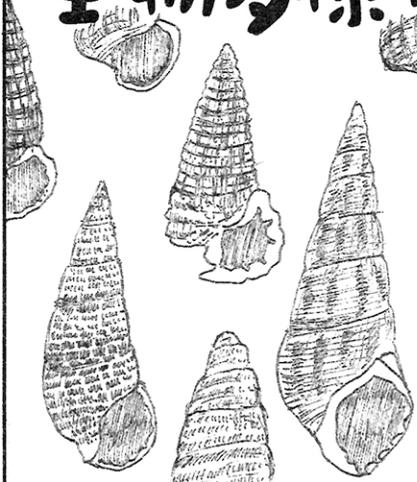


生物多様性ってなんじゃらほい?



▼今から遡ること4年前の秋、愛知で開催されたCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)に参加した水辺に遊ぶ会。カラフルな民族衣装を着たアフリカの政府の方や、NGOの展示エリアで干潟の生物の格好をして寸劇をする韓国の団体の方々、多くの外国の人々で賑わう会場に、世界って広いんだなあ、と、会議とは全く関係ないところに感動して帰ってきたのでござる。

▼さて、それからどうだろう? 「中津干潟は生物多様性に富んでいる」なんて表現をよく使っているけど、みなさん、生物多様性って何だか知ってる? 聞くところによると、愛知で会議が開かれたというのに、「ホンコクミンの4割くらいしかこの言葉を知らないんだって」ということば、ちよつとおそろいしてみますかね。

▼地球上に登場してから40億年、生物は様々な環境に応じて進化を続け、3000万種の生物が生まれたといわれています。これらの生物は、食べたり食べられたりする直接的な関係はもちろん、植物が生み出す酸素を吸って動物が生きているように間接的な関係もあり、互いにつながりあい、支え合って生きているのです。こうした生きものたちの豊かな個性とつながりを「生物多様性」と呼びます。私たちニンゲンも、このつながりのなかのひとつにすぎないのです。

▼生物多様性条約とは、次の3つの観点で、「多様性」を守っていきましようという取り決めです。日本ももちろん、この条約を締結しているのです。

①生態系(自然環境)の多様性
②種(動物植物から細菌までいろいろんな生物)の多様性
③遺伝子(同じ種でも形や模様が違つように個性がある事)の多様性

▼条約に基づいてたてられた生物多様性戦略計画の長期目標は、「自然と共生する」世界の実現。「2050年までに、生物多様性が評価され、保全され、回復され、そして賢明に利用され、そのことによって生態系サービスが保持され、健全な地球が維持され、全ての人々に不可欠な恩恵が与えられる」世界なのだそうぞ。

“Living in harmony with nature” 自然と共生する世界

▼と、壮大な「生物多様性とはなんぞや?」をほとんどすつ飛ばして紹介してみたけど、いかがでしょうか? ま、水辺に遊ぶ会風になつと…

↓川や干潟や海が豊かできれいになつて生きものたちが元気になる
↓貝も魚もカニもいっぱい増えて、漁師さんがニコニコになる
↓中津干潟はスゴイ場所だから、これから頑張つて守つていこう! つてかんじかな?

▼てなわけで、先月、このキャッチコピーを必死で英語にして、おとなりの韓国はピョンチャン(冬ソナの舞台で次の冬のオリンピック開催地)で開催されたCOP12に参加、中津干潟のアピールしてきたのだ。

ムスカイ会議の中身はおいといいて、(日本の海洋の語がほとんど話題にならなかつた)の重畳といいて…(小声)中津干潟の活動にはお褒めの言葉をいただいたし、日本の海を抱える問題には「うちの国も同じだよ」とブラジルの方から励ましの言葉もいただいたり。私たちは、私たちの言葉で、生物多様性の大切さをこれからも伝えていこうと思つよ。

- 活動報告(2014.7.1~2014.9.30)
- 7.1 大分県安心活力発展プラン策定会議出席
 - 7.3-4 アオギス調査(水産大)
 - 7.6 やかた田舎の学校園い刺し網体験
 - 7.8 北部保健所運営協議会出席
 - 7.9 北部小5年生水産教室(ドブワーク)
 - 7.12 カプトガニ調査
 - 7.13 おおいた水フォーラム総会参加
 - 7.14~17 アオギス調査(水産大)
 - 7.18 カプトガニ調査
 - 7.19 自然観察連絡協議会サマシカニ講師
 - 7.22 大新田松林整備作業
 - 7.23 日田市博物館干潟観察講師
 - 7.25 カプトガニ調査
 - 7.26 夏休み干潟観察会主催
 - 7.27 カプトガニ調査
 - 7.29 大分県多自然川づくりコンペ審査員
 - 7.29~8.7 アオギス調査(水産大)
 - 7.30 園い刺し網体験(干潟を元気にする会)
 - 8.3 山国川で魚とり主催
 - 8.4 国土交通省ヒアリング対応
 - 8.10 カプトガニ調査
 - 8.11-12 野依新池周辺魚類調査
 - 8.20 北部公民館生涯学習講座講師
 - 8.21 中津市教職員環境部会研修講師
 - 8.22 測量調査(九州大)
 - アカテガニ産卵観察会その1
 - 8.23 カプトガニ調査
 - アカテガニ産卵観察会その2
 - 8.24 日本カプトガニを守る会総会で講演
 - 8.27 山国川圏域懇談会出席
 - 8.27~9.2 アオギス調査(水産大)
 - 9.3 宇佐市横山小4年生川の観察講師
 - 9.6 香々地青少年の家生物観察講師
 - 9.7 カプトガニ調査
 - 9.8 中津市理容業組合松林整備作業
 - 9.8~10 瀬戸内海環境保全協会研修
 - 9.10 大新田松林整備作業
 - 南部小4年生海の学習
 - 9.11 南部小4年生園い刺し網体験
 - 9.13~14 シギチドリ調査
 - 9.14 大新田ビーチクリーン・松林作業
 - 9.17 世界水フォーラム説明会参加
 - 9.20 生物多様性セミナーにて活動報告
 - 9.21 山国川お魚観察会主催
 - 9.24 大分県環境審議会出席
 - 9.27 園い刺し網体験(干潟を元気にする会)
 - 9.27~29 アオギス調査・胃内容物同定



12月の行事は同封のチラシを見てね。

★恒例!お魚料理教室は年明けに実施します。

太陽インダストリー株式会社様に御礼申し上げます。

観察会にたくさんの皆さんが参加してくださったり、市内外の小学校の子どもたちが大新田に学習に来てくれた時、手足を洗う水やトイレがなくて、とても困っていました。

この度、太陽インダストリー株式会社様より、工場の敷地の一角を無償でお貸しいただくこととなり、さっそく、手足を洗うための水場の設置ができました。また、来春の子どもたちがたくさん来る時期には、仮設トイレを設置するスペースもあります。

私たちの活動にご理解とご支援をいただきました、太陽インダストリー株式会社様に、御礼申し上げます。ありがとうございました。

御礼●コカ・コーラウエスト様

道の駅中津の情報プラザの壁面に、コカ・コーラウエスト様のご支援により、水辺に遊ぶ会の看板を設置させていただきました。心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

御礼●TOTO様 中津理容業組合様

本年度より開始しました「大新田松林再生計画」にご尽力いただきましたことを心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

★ビーチクリーンに毎回熱心にご参加下さいます企業の皆さま、会員の皆さま、行政の皆さまに、この場を借りて御礼申し上げます。

★今後も大新田の松林の再生活動や野依池周辺の環境整備活動などにボランティアさんのお力をお借りしたいと思っております。ぜひともご協力をお願い申し上げます。

ホームページ→<http://www.max.hi-ho.ne.jp/y-ashikaga/>
建物のない博物館 水辺に遊ぶ会ミュージアム(別館もあるよ)
→<http://www.geocities.jp/kabunykun/index.html>
電腦漏漏通信→<http://blog.livedoor.jp/mizube1999/>
事務局へのお問い合わせはメールで→mizube1999@yahoo.co.jp

へんしゅこうき

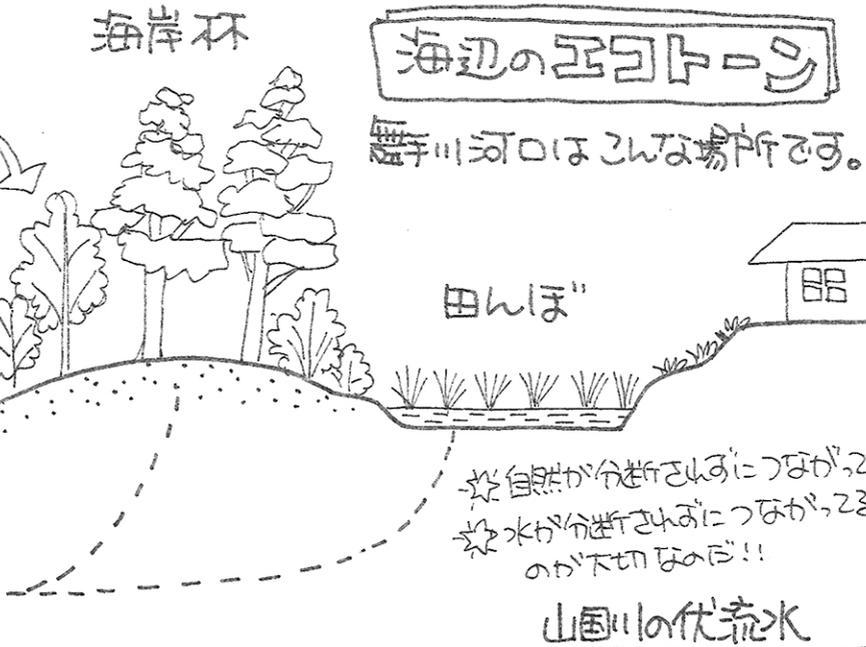
■COP12で韓国に行ってきました。すっかり仲良しになった韓国の海民な皆さんは相変わらず精力的にがんばってました。日本の干潟や湿地の活動を引っ張ってきた先輩方にも、久しぶりに目にかかりました。日韓の湿地NGOのメンバーが大勢集まって、一緒に飲んで、食べて、唄って、踊って…。みんな、海でつながっているんだなあ、嬉しくなりながら帰ってきました。(う)

舞手川河口という場所

久しぶりに水辺に遊ぶ会世間をお騒がせしちゃいました。ご心配いただいた皆さん、ありがとうございました。

▼大新田の東端を流れる舞手川。この河口部の、わずか100m足らずの砂浜は、中津で唯一コンクリートで遮られていない自然の砂浜です。カブトガニが産卵に来ることで知られていますが、河口のヨシ原には、他所の沿岸では見られなくなった小さな生きものの生命があふれています。この最後に残された環境を大切にしながら、津波や高潮から背後の土地を守るため、地元の方や漁業者、研究者、それに行政の方々と、長い時間をかけて話し合いを行い、護岸を内陸部に下げるセットバック護岸が実現しました。東日本震災の堤防でも、このセットバック護岸の発想は話題に上っているそうです。

▼10月の台風の後、この小さな海岸に台風のごみを片付けるため、大きな重機が入るといふ事態が起こりました。多くの人の尽力で守られた海岸は、とてもデリケートで、今も観測を続けている場所だったため、水辺に遊ぶ会では大分県に作業の中止を求めました。大きな重機を入れる事でカブトガニが産卵する砂浜の環境が損なわれることと、背後の砂丘の浸食が進むことによる防災上の心配が大きな理由です。台風ごみの撤去に異論はありません。長い時間をかけて信頼関係を築き、議論を積み重ねてきた場所で、環境に影響の少ない方法が選択肢として考えられなかったことがとても残念です。「ここだけは何かあっても大丈夫」という過信が私たちにあったことも、このような事態に至った原因のひとつかもしれません。小さな生きものたちに謝らねばなりません。

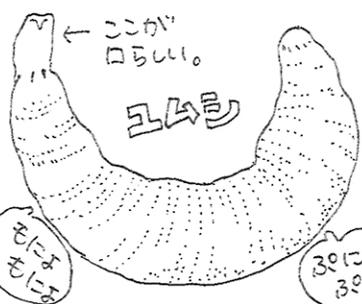


「おきゅー」と「ユムシ」に続く海民フード発見

▼「ユムシ」という生物をご存知だろうか？ 干潟にU字型の巣穴を掘って、その中に生息している無セキツイ動物だ。中津では「イイマラ」(※女子はハシタナイので口に出して読んだらダメだよ)とか「カタイ」とか呼ばれている。干潟の表面の「目」をさがして、巣穴を掘り下げていきながら捕まえるらしいんだけれど、以前、名人に「掘り方教えてー」って頼んだら「ダメーひみつー」って言われちゃったよ。捕まえるのには何やらコツがあるらしい。

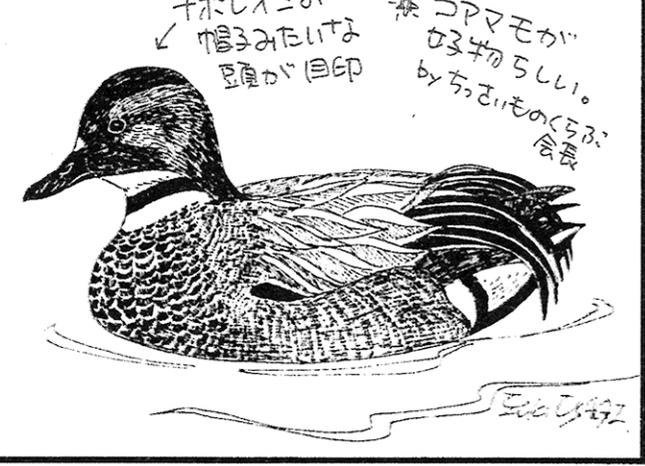
▼このユムシ、韓国では「ケブル」と呼ばれ、刺身や焼き物にして食べる。水産市場に行くと、どこでもカゴに入って普通に売っている。でも、だんだん漁獲が減ってきて、最近では中国からの輸入品が多いとも聞いた。その中国でも、大連や青島で食べられているらしいとの情報を得た！

▼日本ではごく限られた場所でのしか食べる文化のないユムシだが、これもどつや「海民フード」なんじゃないだろうか？ きつと大陸から食べる文化が入ってきたにちがいないと思うのである。ということ、読者の皆さん、ユムシ食情報をお寄せ下さい。おまちしてまーす。あ、引き続き、オキユウト情報も待ってまーすよ！



ヨシガモ カモ目カモ科

●中国やモンゴル、シベリアなどで夏を過ごし、冬になると日本にやって来るカモ。どうしたことが、この数年、中津にやって来る数がどんどん増えている。ひよっとしたら、日本に飛来する数の半分以上がいのカモよ。



ホンの紹介 イヤムシずかん

文と絵：盛口満
発行：ハッピーオウル社

●まずまず独自の視点で光るケッチョ先生。今度ばかりはわれものと相場が決まっているタイプのムシが登場。カブトムシも「キプリもカメムシも裏返しだらけよく似ている(うっそー)」とか黄色と黒のポーターライン模様のムシは近寄ってはいかんという警告。そういえば工事現場にこのデザインのパールが立っているわね。だったり。最強の毒虫の武器の毒汁、毒液注射、やけどをする毒ガス、毒キバなど、小さな体の中は化学工場だったりする。もしかしたらイヤムシって、精鋭の飛行物体なのかもしれないなあ。

